

100周年記念式典

祝 辞

上智大学 経鸞会 会長
上 原 隆 一

経鸞会会長の上原でございます。諸先輩方ご列席の中、誠に僭越ではございますが、お祝いのご挨拶をさせていただきます。

先日、尊敬する先輩の大坂靖彦さんから、戸川宏一先輩を通じて、『学生に与う』という本を頂戴いたしました。著者の河合栄治郎先生は、東京大学で教鞭を執られた経済学者で、研究者としてもたいへんな業績を残された方です。この本を読んで、河合先生は心に哲学を持った経済学者であったと感じました。河合先生は、学問を通して教養を磨き、人格を陶冶することを説かれていらっしゃいます。この本の中で、気になる箇所がありましたので、ご紹介したいと思います。「学校」という章の一節です。

教師！人生の分岐点に立つ若人にひそめる心霊に点火して、これを人生の戦いに駆ること、世にこれほど神聖な職業があるだろうか、これこそ聖職と呼ばれねばならない。しかるにこの名に値する教師は、今や何処に姿を隠しているのであろうか。今日の教師はただ一介のサラリーマンと化した。・・中略・・学校の教育と学問とが危機に瀕する時に晏如として袖手傍観してられる教師、・・中略・・学生の師表として我がごとくなれといいうる自信と矜持とを失った教師、これで日本の教育があるのだろうか、これこそ寒心すべき重大事である。（出典：河合栄治郎『新版 学生に与う』現代教養文庫、1955；pp. 49-50）

なかなか手厳しい意見ですが、驚いたことに、これは昭和15年に書かれた本の一節です。昭和15年当時、上智大学はまだ30歳になっておりません。ここに100周年を迎える上智大学経済学部にあっては、河合先生の嘆きは全く無縁です。100年にわたる歴史の中で、上智大学経済学部の先生方は、まさに河合先生の言われる「聖職」として教育に関わってこられました。その先生方に育てられた学生は、すばらしい社会人となって、世界に通用する人材となっていくことも想像に難くないところです。

その証に、経済学部卒業生には、すばらしい方々が多数揃っていらっしゃいます。残念なことにすでに鬼籍に入っていますが、経鸞会初代会長の伍堂光雄さん、一昨日お別れの会があったばかりの諸橋晋六さんのお二方は、私が心から敬愛する経済学部の先輩です。お二方以外にも、今日に至っても私を叱咤し、導いて下さる先輩たちは、枚挙に暇がありません。今日私がここにあるのも、上智大学あればこそです。上智から、私はたくさんものを頂戴しました。何と言っても、私は上智で伴侶を見つけました。すばらしいゼミナールの指導教授と今でも強い絆で結ばれております。そして私の生涯の宝物といえるたくさんのお貴重な友人を、上智は私に与えてくれました。現在の私を構成している多くの部分は、ほとんど上智がもたらしてくれたものです。

このような思い、「上智愛」をもつ経済学部卒業生は、私以外にもたくさんいらっしゃると思います。卒業生による100周年記念募金でも、最も大きく貢献しているのは、経済学部卒業生であることも、その証のひとつだと思います。こうした「上智愛」がひとつの形として結実したのが、大学創立75周年を機

に卒業生有志が結成した、経済学部同窓会である経鸞会です。

経鸞会では、柳本信一郎・戸川宏一両元会長のころに、単なる情報交換や懇親の組織ではなく、母校に対して貢献していくことが使命であるとの認識に基づいて、会員同士で、また学部スタッフの皆さんと良好な関係を構築し、忌憚のない意見交換をおこなう場として、学部・大学院執行部の先生方との食事会を定期的に開催することにいたしました。

また、優秀な学生を応援しようと、2009年に経鸞会研究奨励金制度を創設しました。毎年、学部から推薦いただいた5名の学生諸君に10万円ずつ研究奨励金を進呈しています。教育にはお金がかかります。我が国よりはるかに高額な授業料が必要なアメリカでは、さまざまな形の奨学金が用意されていて、優秀な学生はその奨学金を活用して研究を進めています。経鸞会研究奨励金制度でお渡する金額は決して十分な額ではありませんが、モチベーション向上の一助となっていると自負しています。また、この制度は卒業生と学生の距離を縮めるといっても一定の役割を果たしていると思います。

今年は、経済学部創設100周年にちなんで研究奨励金を増額し、100万円贈呈することができました。これもひとえに会員の皆様の母校愛がもたらした成果です。趣旨にご賛同いただいた皆様には心より感謝申し上げます。

こうした志は、上智大学経済学部・経鸞会奨学基金の創設につながりました。また、現在では、経鸞会をモデルにした学部学科ごとの同窓会設立の動きが全学に広がっています。経鸞会では、今後も経済学部とさらに良好な関係を築いていきたいと考えております。

上智大学経済学部は、向上心あふれる学生と、教え導くことを聖職と考えるすばらしい先生方により、わが国のこれからの100年を担っていく人材を多数輩出していくことと確信しております。経鸞会は、そのためのお手伝いをしていきたいと考えております。

祝辞が経鸞会の宣伝のようになってしまい恐縮ですが、本日は上智大学経済学部の100周年の節目にあたり、心から祝意を表したいと思います。上智大学経済学部創設100周年、誠におめでとうございます。